

## 「保護者のみなさまへ」

### ～海水浴を安全に楽しむには～



飲酒したら海に入らない。遊泳禁止区域では泳がない。離岸流にご注意を。

「遊泳」に関連した令和元年（2019年）の事故者は269人で、マリンレジャー事故者全体の34%を占めています。

「遊泳」事故の内容を見ると、最も多いのは「溺水」、つまり水に溺れた事故で、「遊泳」の46%を占めています。次いで「帰還不能」、つまり沖合へ出過ぎたり潮に流されたりして岸に戻れなくなった事故が42%、クラゲなど有毒生物や岩、他の遊泳者との接触などによる「負傷」が9%となっています。

事故を防いで安全に遊泳するために、特に次のような点にご注意ください。

- 1) 管理された場所で泳ぐ  
海で泳ぐ場合は、常に監視員やライフセーバーがいる海水浴場などの管理された場所で泳ぐようにしましょう。
- 2) 海にいる危険な生物に注意  
海には、クラゲやエイなど、危険な海洋生物がたくさんいます。これらの危険生物に刺されたりした場合は、すぐに海から出て、病院などの医療機関に行きましょう。
- 3) 海が荒れているときは泳がない  
波が高いときや流れの速いときは危険ですので、絶対に泳がないようにしましょう。
- 4) お酒を飲んだら泳がない  
人はお酒（アルコール）が体内に入ると、判断力や集中力（注意力）の低下や、運動能力の低下などが引き起こされ、本来の泳力が低下し、溺れやすくなります。お酒を飲んだ状態で海に入ることは、溺れやすくなるとともに、溺れたときの死亡率も高くなります。お酒を飲んだら海に入らないことを徹底しましょう。
- 5) 子どもから目を離さない  
子どもは危険が近づいていても察知することができません。思いがけず小さな波でも足をすくわれ、溺れることがありますので、保護者の方は常に子どもから目を離さないようにしましょう。小さな子どもには、体に合ったライフジャケットなどを必ず着せましょう。
- 6) 自分の体調には素直に耳をかたむけて  
自分の体調を把握し、疲労や睡眠不足を感じたら海に入らないようにしましょう。また、海に入る際は、準備運動を念入りに行いましょう。

## 大切な命、自分で守る！自己救命策の確保「3つの基本」

ライフジャケット  
の着用

連絡手段の確保  
防水パック入りの携帯電話  
を持ちましょう

もし海で事故が  
あったら緊急電話  
118番へ救助要請



お問い合わせ

第十管区海上保安本部

〒890-8510 鹿児島県鹿児島市東都元町4-1  
(交通部安全対策課) 099-250-9800



うーみん うみまる  
海上保安庁のイメージキャラクター

海で安全に  
楽しんでね

# ひ 「あの日、」

いちろう しょうがく ねんせい なつやす はい ひ いちろう ことし かぞく うみ い  
一郎くんは、小学5年生です。夏休みに入ったばかりのある日のこと。一郎くんは、「今年こそは家族で海に行きた  
い」とお父さんとお母さんをお願いをしました。仕事がとても忙しい一郎くんのお父さんは、なかなか休みを取ること  
ができません。これまでも、夏休みに家族みんなで旅行に行ったことはありませんでした。「今年の夏はどこかに連れて行  
ってやろう！」と思ったお父さんは、一郎くんのために、思い切って休みを取りました。一郎くんは大喜び。「何を持  
っていこうか。海ではどんな遊びができるんだろう」と、わくわくしていました。

あした うみ い ひ ゆうがた てんきよほう あした は よほう かぜ つよ なみ すこ たか  
いよいよ、明日は海に行く日です。夕方のテレビの天気予報では、「明日は晴れの予報ですが、風が強く、波が少し高  
いでしょう。」ということを送っていました。お父さんは少し考えて「明日は、海に行くのはやめにしようか。他のと  
ころはどうかかな？」と言いました。「いやだ！ゼツタイいやだ！すごく楽しみにしてたんだよ！」と一郎くんは泣きはじめ  
ました。そんな一郎くんをなだめながら、お母さんは、「お天気はいいみたいだから、気をつけていれば大丈夫なんじゃな  
いかしら？せっかくお休みもとれたのだから行きましようよ」と言いました。「そうだなあ。なかなか休みもとれないもんな  
あ。うん！海に行こう」お父さんは海に行くことを決めました。

よくしつ いちろう かぞく あさはや いえ で じかん うみ つ は てんきよほう かぜ つよ  
翌日、一郎くんの家族は、朝早く家を出て2時間かけて海に着きました。晴れていましたが、天気予報どおり風が強  
く、波が少し高いようでした。海岸には、「この海岸の遊泳は危険です。過去に死亡事故が発生しています。ご注意  
ください！」と書かれた注意書きの看板がありました。海で泳いでいる人は、一人もいませんでした。お父さんとお母さん  
は少し不安になりましたが、長い時間をかけてせっかく海に来たということもあり、注意していれば大丈夫だろうと思っ  
ていました。お父さんは、お昼ごはんのバーベキューの準備を始め、一郎くんは早速一人で海に入り、楽しそうに泳ぎ  
始めました。近くではお母さんが一郎くんを見守っています。「ああ楽しいなあ。海からあがるのがもったいないな」と  
思っていた一郎くんは、海の中から「お母さーん！のどがかわいた！飲み物をちょうだい！」と声をかけました。「お  
父さんのところにおいてあったわね」とお母さんは、飲み物を取りに行きました。

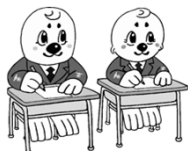
あお うみ ひろ そら いちろう はじ かいすいよく むちゅう およ なに きし む  
青い海、広い空。一郎くんは初めての海水浴に、夢中になって泳いでいました。「あれ？何かおかしい！」岸に向か  
って泳いでいるはずなのに、体がどんどん岸から離れて行ってしまいます！これまでと全くちがう速い流れにつかま  
ってしまいました。一郎くんは、あっという間に、岸から遠く離れた沖へ流されてしまいました。岸にもどろうと、もがい  
てももがいても流されていくばかり。口や鼻にどんどん海の水が入ってきて、お母さんお父さん呼びたくても声も出ま  
せん。息もできなくなってきました。だんだん、手にも足にも力が入らなくなり、「もう…動けない…。お父さん、お母  
さん、助けて。」一郎くんの思いは、声にはなりませんでした。

の もの も かあ うみ うえ いちろう すがた み き いちろう いちろう  
飲み物を持ってもどってきたお母さんは、海の上で一郎くんの姿が見えないことに気づきました。「一郎？一郎！！  
どこなの？」どんなに名前を呼んでも、さけんでも、一郎くんの返事はなく、押しよせる波の音や風の音が、おそろしく  
響くばかりでした。



こえ はまもとれいか ろうどくか  
声：浜本麗歌 さん（朗読家）

音源はこちらからダウンロードしてください



## かんがえてみよう！

じこをふせぐにはどうしたらよかったのでしょうか？